

問040001問題

利用者認証に関する次の記述を読んで、設問 1, 2 に答えよ。

X社では、社外の端末から社内のサーバへのリモートログインを可能にするため、利用者認証の方式を検討している。社内では、利用者IDとパスワードをサーバに送信する方式を使用しており、そのパスワードの強化を含め、次の三つの方式の安全性を検討している。

〔方式 1 : 利用者IDとパスワード方式〕

端末は、利用者が入力した利用者IDとパスワードをサーバに送信する。サーバは利用者IDから登録されているパスワードを検索し、送信されたパスワードと照合することによって、ログインの可否を応答する。利用者IDとパスワード方式を図1に示す。

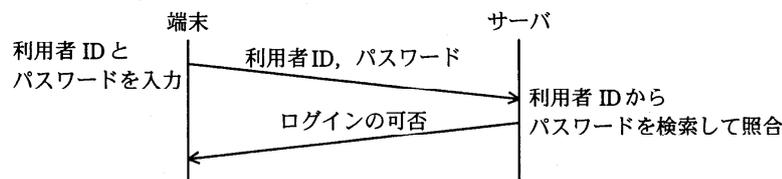


図1 利用者IDとパスワード方式

〔方式 2 : チャレンジレスポンス方式〕

端末は、利用者が入力した利用者IDをサーバに送信する。サーバは、利用者IDを受信すると、ランダムに生成したチャレンジと呼ばれる値 c を端末に送信する。端末は、利用者が入力したパスワード p とチャレンジ c から、ハッシュ値 $h(p, c)$ を計算して、レスポンスの値としてサーバに送信する。サーバは、利用者IDから登録されているパスワード p' を検索し、端末と同じハッシュ関数 h を使って計算したハッシュ値 $h(p', c)$ とレスポンスの値とを照合することによって、ログインの可否を応答する。ここで、ハッシュ関数 h は公知のものであり、どの端末でも計算可能とする。チャレンジレスポンス方式を図2に示す。

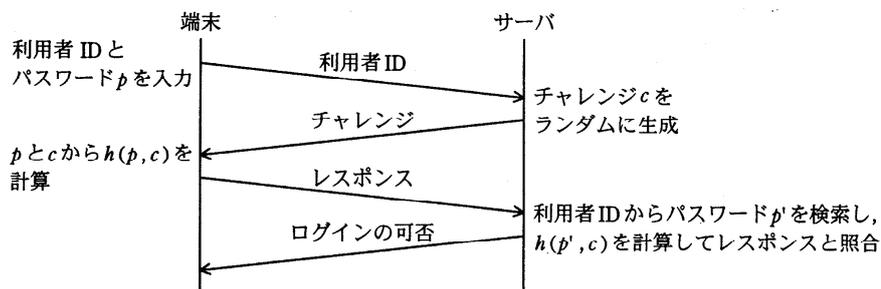


図2 チャレンジレスポンス方式

〔方式3：トークン(パスワード生成器)方式〕

利用者には、自身の利用者IDが登録されたトークンと呼ばれるパスワード生成器を配布しておく。トークンの例を図3に示す。

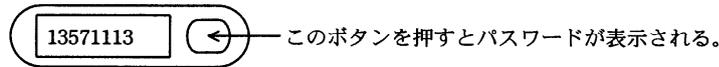


図3 トークンの例

トークンは時計を内蔵しており、関数 g を使らて、利用者IDである u と時刻 t に応じたパスワード $g(u, t)$ を生成し表示することができる。利用者は、利用者IDとトークンが生成し表示したパスワードを入力し、端末はこれらをサーバに送信する。サーバは、利用者IDである u とサーバの時刻 t からトークンと同じ関数 g を使って生成したパスワード $g(u, t)$ と端末から受信したパスワードとを照合することによって、ログインの可否を応答する。

なお、トークンの時刻とサーバの時刻が同期していることは保証されており、トークンのパスワード表示からサーバにおけるパスワード生成までの遅延も、一定の時間は許容する。トークン方式を図4に示す。

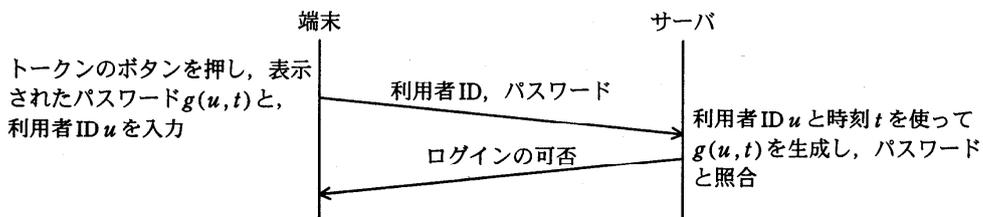


図4 トークン方式

設問1 パスワードの強度に関する次の記述中の に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。

方式1, 2では、利用者がパスワードを設定する。これらの方式を採用する場合には、容易には推定されないパスワード、すなわち、十分な強度をもつパスワードを、利用者 に設定してもらう必要がある。

パスワードの強度を高めるためには、パスワードを長くすることやパスワードに利用する文字の種類を増やすことが考えられる。例えば、英小文字26文字だけからなる8文字のパスワードに対して、総当たり方式による発見に必要な最大時間を1とすると、パスワードの長さを10文字にすれば必要な最大時間は a となる。また、同じ8文字であっても、英大文字も使用する場合、必要な最大時間は b となる。

解答群

- | | | | |
|--------|-------|---------|-------|
| ア 1.25 | イ 2 | ウ 208 | エ 256 |
| オ 260 | カ 676 | キ 1,024 | |

設問2 盗聴のリスクに関する次の記述中の□□□□に入れる正しい答えを、解答群の中から選べ。解答は、重複して選んでもよい。

利用者認証の方式によっては、不正な方法によって入手した情報(例えば利用者IDとパスワード)をそのまま利用することによって、不正ログインが行われる可能性がある。

- (1) 社外からの通信経路上で通信内容が盗聴された場合、盗んだ情報をそのまま利用することによって、利用者がパスワードを変更しない限り、サーバへの不正ログインがいつでも可能になるのは、□ c □である。ただし、通信経路は暗号化されていないものとする。
- (2) 社外からのリモートログインに利用する端末上で、キーボード入力を読み取って、第三者に送信するプログラムが動作していた場合、盗んだ情報をそのまま利用することによって、利用者がパスワードを変更しない限り、サーバへの不正ログインがいつでも可能になるのは、□ d □である。
- (3) 誤って不正なサーバに接続して通常のログイン操作を行った場合、誤接続したサーバ上で端末から送信された情報が盗まれる場合がある。この盗んだ情報をそのまま利用することによって、利用者がパスワードを変更しない限り、サーバへの不正ログインがいつでも可能になるのは、□ e □である。

解答群

ア 方式1だけ

イ 方式2だけ

ウ 方式3だけ

エ 方式1, 2だけ

オ 方式1, 3だけ

カ 方式2, 3だけ

キ 方式1, 2, 3すべて